



～ 夢ひとすじに ～

# 宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 2 8 年 度 第 5 号  
平成 2 8 年 9 月 1 日 (木) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

## 「不満！ と 愚痴！」

こ ばやし ひろ とし  
校 長 小 林 広 利

「今やろうと思ったのに、うるさく言うからやめた」「あの人の言い方は、いつも頭にくる」「何であの人はすぐに否定するのか、気に入らない」「どうせだめだし、面倒くさい」・・・などなど。

うまくいかないとき、イライラしているとき、つい不満や愚痴を口にしてしまうことは、人にはあることかもしれません。しかし、よくよく考えてみると、結局は小さなことだったり自分に原因があったりすることがよくあります。不満や愚痴を言い続けると、たとえそれが初めは小さなことであっても、繰り返しているうちに不満や愚痴は心の中で成長し、やがてはその人の中で大きな問題点となってしまいます。また、不満や愚痴を言う人の周りには、同じような人しか集まってこなくなります。あなたは、学校中の生徒が不満や愚痴を口にしてばかりいるような環境で生活したいと思いませんか。

夏休みには、生徒会本部役員の、3年生 内村裕美さん、2年生 甘利光翼くんが、宮原中学校代表として、さいたま市こども会議に参加しました。さいたま市立のすべての中学校から代表者が集まり、いじめのない学校をつくるため、様々な視点で話し合いを行いました。多くの人たちで生活している社会や学校の豊かさとは、そこで生活する一人ひとりの多様性や個性がもたらしているといえます。友達のあさがしをするのではなく、お互いの違いを尊重し、すべての人が落ち着いた穏やかな生活を送ることができる学校にするため、無視をしたり、悪口・陰口を言ったり、悪いうわさを流したり、物を隠したりなど、陰湿で卑怯ないじめという行為のない学校にする取り組みを、さいたま市こども会議の話し合いを受けて、全員で具体化していきましょう。当然、たたいたり蹴ったりすれば、それは暴力です。いじめ・暴力は誰も決して行わない、周りの人たちもこのような行為は決して許さないという強い決意をもって、よりよい学校をつくりましょう。

さて、7月17日に行われた中仙道みやはらまつりで、本校の生徒はみこしを担ぎ、エネルギーを前向きに発揮して、祭りを盛り上げてくれました。生徒の皆さんは、ご指導いただいた多くの地域の方々に感謝する心をもつとともに、みやはらまつりを通して、確実に成長した自分を実感し、皆さんの若いエネルギーは学校や地域をよりよくする力を持っているということを忘れないでほしいと思います。

また、今年の夏は、リオオリンピックで世界中が沸きあがりました。日本選手は、各競技で大活躍し、多くの感動を与えてくれました。団体金メダルに輝いた体操男子、中でも体操個人総合でロンドンオリンピックに続き、2大会連続の金メダルを獲得した内村航平選手の演技には感動しました。内村選手が前々回の北京オリンピックで2位に終わったとき、「銀という字は、金より良いと書くのよ！」と母が励ましてくれたと言います。多くの人々の指導と励ましの結果が一つの偉業につながり、内村選手も周りへの感謝を忘れていません。確かに、練習を積み重ねてきた汗を一粒加えれば、銀だって金より良いと書きますし、銅だって金と同じ（価値がある）と書きます。さらに、メダルには手が届かなかった多くの選手の辛い練習も、また私たちの周りに起こる辛い出来事も、ポジティブな考え方を一つ加えれば、「辛」を「幸」に変えることができるということを、多くの選手たちに教えてもらったオリンピックだったように感じます。各部活動においても、全国、関東、埼玉県、さいたま市と大会や発表会の規模は違っても、オリンピック同様に真剣な戦いを見せてくれました。不満や愚痴を口にしても、前には進みません。ましてやいじめや暴力は恥ずべきことです。二学期は、さらに、自分のよさや友達のすばらしさに目を向け、自分の若きエネルギーを信じて、勉強に、行事に、部活動に努力してください。保護者・地域の皆様には、二学期も本校生徒へのご支援をよろしくお願い致します。



【稲葉康久教育長も子どもたちを応援してくださいました】